

# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成30年12月号 目次

## 【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(平成30年8月～10月) .....	1
農産物の残留農薬検査結果(平成30年10月) .....	3

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 11月 .....	5
--------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	9
---------------------	---

# アレルギー物質を含む食品の検査結果(平成30年8月～10月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高い7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造、調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べた場合、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、死に至るケースもあります。そのため、横浜市では食品に特定原材料の表示がないものや、特定原材料除去食の検査を行い、食品の安全を確認しています。

平成30年8月～10月に健康福祉局食品専門監視班が市内の食品製造施設で収去した食品および各区福祉保健センターが小学校で収去した特定原材料除去食について、卵、乳、小麦の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

## 1 卵の検査

市内の食品製造施設から収去した原材料に卵を使用していないとされる食品30検体、および小学校から収去した卵除去給食等11検体、合計41検体について卵の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、40検体は陰性(10ppm未満)で、1検体は陽性でした(表1)。

陽性となった検体(麺類:キノコ麺)は、ウェスタンブロット法による確認試験でも陽性となりました。この結果を受けて食品専門監視班が調査したところ、卵不使用の麺と卵使用の麺の製造は同じ機械を用いて行われており、清掃が不十分であるためにコンタミネーションが起きたことが推測されました。食品専門監視班の指導後、製造過程ごとの製品をELISA法で再検査したところ、いずれも陰性(10ppm未満)でした。

表1 卵の検査結果

食品	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	11	0	-	-
麺類	8	1	1	1
菓子類	6	0	-	-
その他(ブイヨン等)	16	0	-	-
合計	41	1	1	1

## 2 乳の検査

市内の食品製造施設から収去した原材料に乳を使用していないとされる食品5検体、および小学校から収去した乳除去給食等16検体、合計21検体について乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

食品	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	16	0	-	-
その他(ブイヨン等)	5	0	-	-
合計	21	0	-	-

### 3 小麦の検査

市内の食品製造施設から収去した原材料に小麦を使用していないとされる食品11検体、および小学校から収去した小麦除去給食等8検体、合計19検体について小麦の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

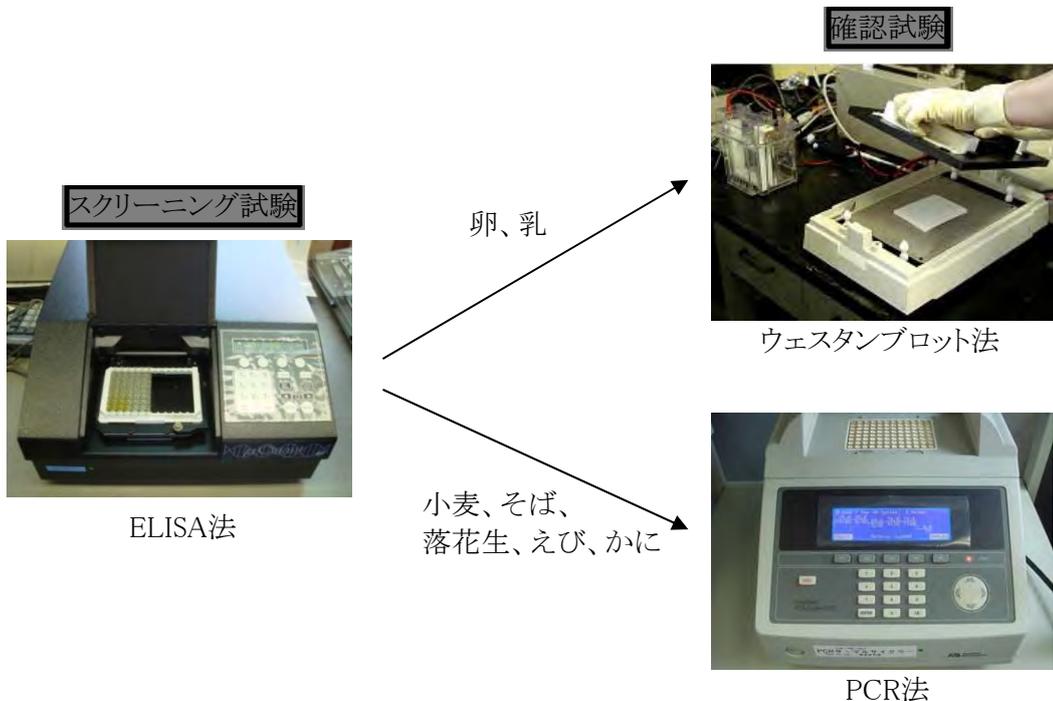
食品	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	8	0	-	-
菓子類	7	0	-	-
その他(ブイヨン等)	4	0	-	-
合計	19	0	-	-

#### 「スクリーニング試験」と「確認試験」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング試験で陽性の可能性がある検体を選び出し、その後別の検査法で陽性の確認を行います。

スクリーニング試験で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング試験で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認試験を行います。

確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、小麦、そば、落花生、えび、かには、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【理化学検査研究課 食品添加物担当】

# 農産物の残留農薬検査結果(平成30年10月)

食品中に残留する農薬等が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、平成30年10月に健康福祉局食品専門監視班、各区福祉保健センターが収去した農産物等の検査結果を報告します。

## 1 市内産農産物

さつまいも(5検体)、こまつな、とうがん(各4検体)、かき(3検体)、さといも(2検体)、かぼちゃ、キャベツ、じゃがいも、だいこんの根、トマト、なす、ブロッコリー及びほうれんそう(各1検体)の合計26検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。なす、ほうれんそう(各1検体)及びこまつな(2検体)から計5種類5項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

## 2 国内産農産物

じゃがいも、チンゲンサイ、だいこんの根及びレタス(各1検体)の合計4検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。チンゲンサイからアゾキシストロビンが0.04ppm、チアメトキサムが0.02ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H30年10月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農産物</b>						
かき	横浜市	3	0			
かぼちゃ	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	4	2	クロルフェナピル	0.15	5
				* [ダイアジノン	0.06	0.1
				テフルトリン	0.05	0.5
さつまいも	横浜市	5	0			
さといも	横浜市	2	0			
じゃがいも	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	1	0			
とうがん	横浜市	4	0			
トマト	横浜市	1	0			
なす	横浜市	1	1	トルフェンピラド	0.02	2
ブロッコリー	横浜市	1	0			
ほうれんそう	横浜市	1	1	シアゾファミド	0.15	25
<b>国内産農産物</b>						
じゃがいも	北海道	1	0			
チンゲンサイ	茨城県	1	1	[アゾキシストロビン	0.04	40
				チアメトキサム	0.02	5
だいこんの根	青森県	1	0			
レタス	茨城県	1	0			

\*中括弧({})は同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	○	○	アセタミプリド	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和 <sup>3)</sup> )	0.005	○	○	○	○	アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	アラクロール	0.01	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	-	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界(ppm)	農産物				農薬名	検出限界(ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
イソキサチオン	0.01	-	○	○	○	ビフェントリン	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	ピリダベン	0.01	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	ピリメタニル	0.01	○	-	-	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	フィプロニル	0.002	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	-	フェナリモル	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	-	フェンクロールホス	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○
クロルプロファミ	0.01	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	-
クロロクソン	0.01	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フサライド	0.01	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	フルジオキソニル	0.01	○	○	○	○
ジホール	0.01	○	○	○	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○
シニドシエチル	0.01	○	○	-	-	フルトラニル	0.01	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○	フルフェノクソン	0.01	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	プロバホス	0.01	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
シラフルオフエン	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
チアメキサム	0.01	○	-	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-
トリアジメノール	0.01	○	○	○	-	マラチオン	0.01	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	マイクロブタニル	0.01	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	-	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	-	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	-	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○

\*1 A:かぼちゃ、こまつな、チンゲンサイ、トマト、ブロッコリー、ほうれんそう

B:キャベツ、だいこんの根、とうがん、なす、レタス C:さつまいも、さといも、じゃがいも D:かき

\*2 ○:実施、-:実施せず

\*3 DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告 11月

## 《今月のトピックス》

- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告数が多い状態が続いています。
- 百日咳の報告が34件ありました。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

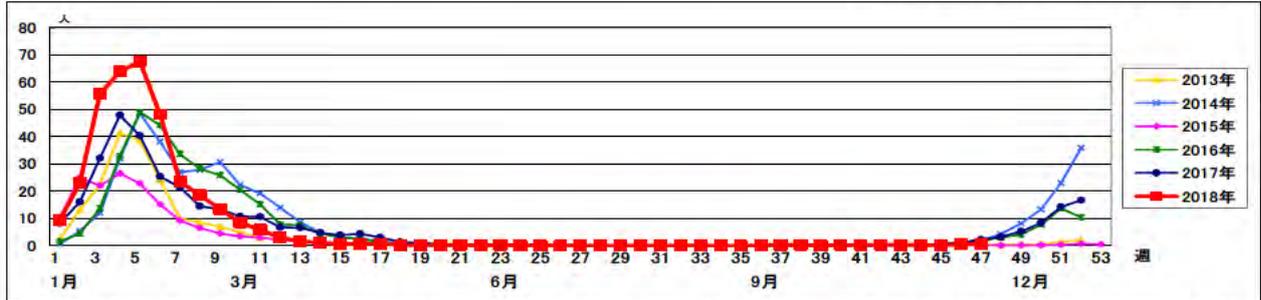
細菌性赤痢	3件	急性脳炎	2件
腸管出血性大腸菌感染症	6件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
A型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
デング熱	4件	水痘(入院例に限る)	3件
レジオネラ症	4件	梅毒	7件
アメーバ赤痢	4件	破傷風	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	百日咳	34件
急性弛緩性麻痺	1件	風しん	39件

- 1 細菌性赤痢:ハワイでの経口感染と推定される報告(sonnei(D群))が2件、感染経路等不明の報告(flexneli(B群))が1件ありました。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157の報告が5件(うち1件が無症状病原体保有者)、O145の報告が1件ありました。
- 3 E型肝炎:経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 4 A型肝炎:同性間の性的接触と推定される報告が2件、経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 デング熱:4件の報告(感染地域はマレーシア、インド、タイ、ベトナム)がありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が4件あり、感染経路等不明です。
- 7 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が4件あり、国内での異性間の性的接触が1件、カンボディアでの経口感染が1件、感染経路等不明が2件でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 急性弛緩性麻痺:ポリオ含有ワクチン接種4回ありの幼児の報告が1件ありました。
- 10 急性脳炎:小児および70歳代の報告が1件ずつあり、いずれも病原体はVZVでした。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:乳児の報告が1件ありました。
- 12 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が1件(感染経路等不明)、無症状病原体保有者の報告が2件(中国での異性間性的接触が1件、タイでの同性間性的接触が1件)ありました。いずれも男性でした。
- 13 侵襲性肺炎球菌感染症:60歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、70歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)ありました。
- 14 水痘(入院例に限る):10歳代の報告が1件(ワクチン接種あり)、20歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 15 梅毒:7件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。いずれも感染地域は国内、感染経路は性的接触で、異性間が4件、異性間および同性間が1件、詳細不明が2件でした。男性4件、女性3件でした。
- 16 破傷風:10歳代の報告が1件(ワクチン接種あり)ありました。
- 17 百日咳:10歳未満では乳児が5件(ワクチン接種あり1件、なし4件)、小児が15件(ワクチン接種あり13件、不明2件)の報告があり、10歳代で10件(ワクチン接種あり7件、不明3件)、20歳代で1件(ワクチン接種あり)、30歳代で2件(いずれもワクチン接種不明)、40歳代で1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 18 風しん:検査診断例36件、臨床診断例3件が報告されています。20歳代6件(ワクチン接種あり2件、なし1件、不明3件)、30歳代13件(いずれもワクチン接種不明)、40歳代14件(ワクチン接種なし2件、不明12件)、50歳代5件(ワクチン接種なし1件、不明4件)、60歳代1件(ワクチン接種あり)でした。男性35件、女性4件でした。

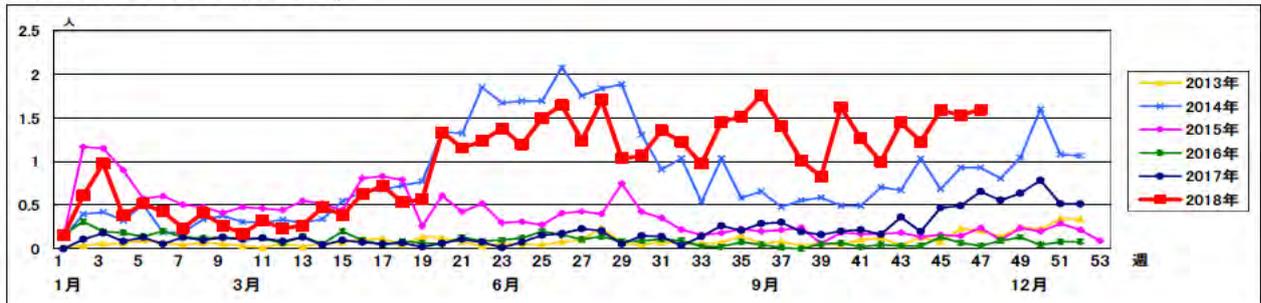
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ：流行開始の目安となる定点あたり1.00は超えていませんが、第45週は0.18、第46週は0.51、第47週は0.73と増加しています。

報告週対応表	
第44週	10月29日～11月4日
第45週	11月5日～11月11日
第46週	11月12日～11月18日
第47週	11月19日～11月25日



2 伝染性紅斑：2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第47週では定点あたり1.60となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:2件	淋菌感染症	男性:11件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.25	0.33	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

### ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### 〈ウイルス検査〉

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件、内科定点15件、基幹定点17件、眼科定点5件、定点外医療機関から搬入された検体は16件でした。

12月7日現在、ウイルス分離15株と各種ウイルス遺伝子17件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱 (ア デ ノ 感 染 症 含 む)	RS ウ ィ ル ス 感 染 症	手 足 口 病	脊 髄 炎	熱 性 け い れ ん	発 熱
インフルエンザ AH1pdm型			9						
インフルエンザ AH3型			3						
アデノ 2型				1					
アデノ 3型	1								
パラインフルエンザ 1型	1	1							
ヒトメタニューモ	1	2							
RS		1	1		1				
ヒトコロナ 229E or NL63									1
ライノ	2	2	1				1		1
ヒトパレコ(型未同定)								1	
コクサッキー A16型						1			
合計	1 4	0 6	12 2	1 0	0 1	1 0	0 1	0 1	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウィルス担当 】

〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、レジオネラ菌1件、肺炎球菌2件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、バンコマイシン耐性腸球菌3件の依頼がありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、腸管出血性大腸菌6件、キャンピロバクター1件となっています。

「分離同定」の依頼は、非定点からレプトスピラ8件、ボレリア3件、基幹定点からは真菌1件の依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
	レジオネラ菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> 1群
	肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 35型(1)、15型(1)
医療機関 非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex(1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> (1)、 <i>Pantoea</i> spp (1)
	バンコマイシン耐性腸球菌	3	<i>Enterococcus faecium vanB</i> 保有
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Enterobacter aerogenes</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)、 <i>Cedecea davisae</i> (1)
保健所	腸管出血性大腸菌	6	O157:H7 VT1VT2(3)、O157:H7 VT2(1)、 O157:H- VT1VT2(1)、O145:H- VT2(1)
	キャンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i>

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 非定点	真菌	全血(スメア)	1	<i>Skeletocutis semipileata</i>
		レプトスピラ	4	nested-PCR(不検出)
	ボレリア	尿	4	nested-PCR(不検出)
		血清	2	PCR 不検出 抗体(IgG-、Borderline、IgM-)
		血液	1	PCR 不検出
保健所	レジオネラ菌	喀痰	1	不検出(培養法)

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	A群 T28(1)、A群 TB3264(2)、不検出

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

平成30年11月の総アクセス数は、134,255件でした。前月に比べ約3%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*170.5%、保健情報10.3%、検査情報月報2.2%、生活環境衛生1.8%、食品衛生1.6%、薬事0.7%でした。

\*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

11月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。また、8位に、「エンテロウイルスについて」、9位には、「ライノウイルスについて」が入っています。

表1 平成30年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」	10,119
2	大麻(マリファナ)について	8,416
3	横浜市感染症情報センタートップページ	6,245
4	衛生研究所トップページ	3,722
5	インフルエンザワクチンについて	3,698
6	水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について	3,641
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,183
8	エンテロウイルスについて	2,195
9	ライノウイルスについて	2,173
10	横浜市感染症発生状況(平成30年 第43週～第47週)	2,097

データ提供: 市民局広報課

電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに?」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/kaisen.pdf>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年11月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成30年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
薬物関係について	1	管理課
植物の毒性評価について	1	理化学検査研究課

## 2 追加・更新記事

平成30年11月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成30年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 1日	横浜市風しん流行情報6号	掲載
11月 5日	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果(2016-2018年)	更新
11月 8日	横浜市風しん流行情報7号	掲載
11月 8日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
11月13日	中国(中華人民共和国)のこどもの定期予防接種について	掲載
11月14日	2018年度横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果	掲載
11月16日	全国の熱中症患者発生状況	更新
11月16日	手足口病について	掲載
11月21日	エンテロウイルスについて	更新
11月22日	横浜市風しん流行情報8号	掲載
11月27日	中華人民共和国(マカオ特別行政区)のこどもの定期予防接種について	掲載
11月29日	横浜市風しん流行情報9号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】